

とある看護臨床実習で...

医療福祉センター草津より

医療福祉センター草津で働く看護師に対して、
看護学生から「看護への思い」についてインタビューを受けました。
普段働いている時には、なかなか言葉にしない、
看護師の『内なる思い』をご紹介します。



学生

ここで働こうと思ったきっかけはなんですか？

一般の病院とは異なり、生活を大事にしているところに惹かれました。体調が悪くなっても、ふつうの生活に戻していくことが大切で、それを多職種チームで考えて実践していることが、この看護の醍醐味ですね。

看護師

学生

この施設ならではの難しさややりがいは何ですか？

利用者さんの障害の特性もあって、入職したばかりの時はなかなか受け入れてもらえず、ケアも満足にさせていただけなくて難しいなあと感じていました。でも、毎日あいさつしたり、関わりをもつ中で、徐々に距離が縮まり、ケアも受け入れてもらえるようになりました。そうやって時間をかけて人と人との信頼関係を築いていけるとところに面白さややりがいがあります。

看護師

学生

利用者さんとコミュニケーションをとる時に気を付けていることはなんですか？

この施設の利用者さんは、言葉でのコミュニケーションが難しい方が多いので、示される反応や変化から本人さんの思いを推察しています。自分の勝手な思いだけではダメで、本人の思いに寄り添うことが大事です。「こう思うけど、本当にそうなのかな？」を忘れないようにしています。

看護師

学生

利用者さんが職員をよく見ているなと思ったエピソードは？

利用者さんには視力の弱い方もおられます。でも、看護師と他の職員の声を聞き分けておられて、看護師にしかできない処置をして欲しい時には、看護師の手を握るんです。看護師も日によって担当が違うし、たくさんいるんですが、声で判別できるほど、よく見て知ってくださっているんですよ。

看護師

【看護教育担当者より】

看護師はこんな思いを抱きながら日々利用者さんの援助をしているんですね。インタビューを受け、思いを言葉にすることで、『看護をする上で自分が何を大切にしているのか』、見つめ直す貴重な機会をいただきました。
看護学生さん、ありがとうございました☆（次回11月 インタビュー第2弾UP予定）

